

沖縄カトリック中学高等学校
学校通信

野ばら 1月号

発行
沖縄カトリック中学高等学校
〒901-2215
宜野湾市真栄原3-16-1
TEL 098-897-3300
<http://www.catholic-okinawa.ed.jp/>
2018年1月9日(火)

歌うことは祈ること

教頭 二俣隆則

あけましておめでとうございます。皆様の上に主イエス・キリストの祝福が豊かに注がれますようお祈りいたします。

さて、学校という場所に歌が欠かせないということは保護者の皆様ご自身の経験からもわかりいただけることだと思います。その中でもカトリックミッションスクールは典礼聖歌との関係においても特に歌を大切にしています。ところが、変声期に入った男子を中心になかなか声を出さ(せ)ない生徒が少なくありません。そのような場合には私も「もっと大きな声をだして!」と言っておりました。更に担任をしている頃には、声の大きさで他のクラスに負けるなどという思いで執拗なまでに同じようなことを叫んでいたことを覚えています。

私がなぜこの話をするかと申しますと、月刊誌「聖母の騎士1月号」の中に掲載されていたある文に衝撃を感じ、是非分かち合いたいと思ったからです。著者は全国で聖歌隊・合唱団を指揮するクワイヤーディレクターとして活躍されている小口浩氏です。著書の中で同氏は、幼稚園の3年間、半ズボンでひざまずき、たとえ膝が痛くとも静寂な空間で祈ることで自然に「聖歌を歌うことが祈ることである」という公式を導き出したのでした。そしてその後、ピアノを専門に勉強してきた同氏ですが、ピアノを演奏する自分ではなく、祈る自分が神様から選ばれたことを悟ります。「私の指導に出会う歌手は大変だと思います。歌うということは表面的には同じですが、声楽家の方が音楽のための歌を歌われるのに対し、私は神様のための歌を目指すのでビジョンが全く違うのです。」と。また、グレゴリオ聖歌(ローマカトリック教会の典礼に用いる男声の斉唱による単旋律聖歌。厳かで清らかな響きを醸し出す。)の唱法をベースにした息遣いと発声のため、「歌いすぎです。歌わないで祈ってください。」というのが口癖になったと言います。私はこの言葉が非常に衝撃的だったのです。「もっと心を込めて歌いましょう。」とはよく伝えておりましたが、小口氏の様な発想は全くなく、大変驚くと共にこれまでの指導について大いに考えさせられました。

振り返ってみますと、正しい理解かどうかは分かりませんが、感動を誘うような歌の場合、同氏の言葉に通ずる?場面がいくつか思い浮かびます。例えば、合唱コンクールではクラスメイトの心が一つとなり、優勝したいと祈る気持ちが一番強いクラスが優勝します。また、卒業式の際の卒業生の歌は、涙で声がかき消され少々聞こえなくても感動を感じるものです。いくつかの人生の節目の一つを迎えられたことに対する感謝の気持ちと学舎を去る寂しさと共に、友を思い互いの前途を祈る気持ちが神様に届いているのでしょう。

ちなみに同氏が幼稚園で習った聖歌の中で最も好きな曲は「ごらんよ空の鳥」(典礼聖歌391番)だそうです。この曲は、卒業して2年後に教会でお祝いする本校主催の成人式の際にも歌っており、中には思わず目頭を熱くさせる新成人もいます。

多くの祈りが多くの感動を呼ぶものと信じ、今年も神様の愛の福音が全世界に染み通るよう賛美と感謝を捧げて参りたいと思います。

寝返りにふと思う

中学3年A組担任 真栄里賢治

先日4ヶ月になる息子が初めて寝返りを成功させたときの写真を妻に見せてもらいました（私は仕事で残念ながらその瞬間をリアルタイムで見ることができませんでした）。写真にはうつ伏せの状態から顔を上げ、誇らしげに笑みを浮かべる我が子が写っていました。4ヶ月の赤ちゃんが「誇らしげに」というのは親バカな見方かもしれないのですが、寝返りという赤ちゃんにとって一つの大きなハードルをクリアできた達成感がそのような表情を作ったのではないかと思わせる写真でした。

一般的に赤ちゃんは、寝返り→ハイハイ→つかまり立ち→独り歩きの順に歩行が発達し行動範囲が広がり、この発達を経て赤ちゃんが見える景色・世界が変わっていくのは赤ちゃんにとって劇的な変化だろうと想像します。赤ちゃんの歩行の発達に限らず、何かができるようになる、上達する、知識を得るということは、それによりものの見え方が変わる、世界が広がるということだと思います。しかし逆に言うと、できること、上達すること、知識が増えないということは、ものの見方が変わらない、世界が広がらないということなのかもしれません。それは何か寂しい気がします。

『人生は成長だ。

もし、技術的にも精神的にも成長することをやめたら、私たちは死んだも同然だ』

うえしばもりへい
植芝盛平

という先人の言葉もありますが、日々成長すべく小さなことでもできることを積み上げていくことが、ものの見方を多様にし、それにより人生を豊かにするのではないかと思います。教鞭をとる立場である以上、生徒には一つでも多くのことができるようになってもらいたいと思いますし、そうなるよう支援をしていきたいと考えています。

現在、息子は寝返りしてうつ伏せになった状態から、仰向けの状態に戻れずよく泣いています。しかし、それでもめげずに練習をがんばっています。何事も続けないと成功することもないということを体現しているようです。「俺もがんばらないと」。息子の寝返りを通じてふと考えさせられる日々です。





1月の行事



1月9日(火)	生徒集会 授業開始 高1~3 Kパック
10日(水)	高2~3 Kパック 職員会議 完全下校 16時20分
12日(金)	PUP⑧
13日(土)	家庭学習日 前期入試
13日(土)・14日(日)	センター試験
15日(月)	高3 センター試験 自己採点
16日(火)~20日(土)	高2 修学旅行
17日(水)	小5 高1 交流会
20日(土)	英検 中1~高1
24日(水)	生徒会選挙(15:45~16:55 実施、その後、清掃・終礼)
25日(木)	高1 進研総合学力テスト 高2 進研総合記述
27日(土)	家庭学習日 漢字検定
31日(水)	委員会活動





生徒の頑張り



★第37回全国中学生人権作文コンテスト

奨励賞 中3 久志香己乃 題「無意識という差別」
 沖縄人権擁護委員協議会長賞 中3 外間玲美 題「ハンセン病を知って」

★第23回沖縄県中学校総合文化祭

歌・三線の部 中2 比嘉梨音 参加
 作品展示の部 中1 河野瑠導 出品 題「生き物の形を応用したグライダー作り4」

★第65回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール

＜書道・中学の部＞

優秀賞	中1 平良悠	佳作	中1 河野瑠導
優良賞	中2 比嘉このみ		中1 中山盛榎
	中2 高里由貴子		中2 パーカー絵理華アシュリ
	中3 外間玲美		

＜書道・高校の部＞

優良賞	高2 外間栄美	佳作	高1 普天間朝基	高1 幸喜渚
			高1 赤嶺佳菜美	高1 宮良龍一

★沖縄県高等学校文化連盟主催 第29回高等学校書道展

奨励賞 高1 幸喜渚 赤嶺佳菜美 宮良龍一

★平成29年度 中部地区読書感想文・画コンクール

感想文・自由図書の部 優秀賞 中3 外間玲美

★宜野湾の文化財図画作品展

銀賞	中2 宜保侑樹	タイトル「普天満宮」		
銅賞	中3 伊佐明香里	タイトル「大謝名メーヌカー」		
銅賞	中3 外間玲美	タイトル「森の川」		
入賞	中1 比嘉祐大	乾夢子	津波古ノア	安慶名愛夏
	中2 與儀真妃	屋比久まい	仲西のの	落合さくら
	中2 香村周	幸地哲志	島袋智滉	高里由貴子
	中3 宇座杏樹	宮平祐輔	佐野建斗	崎浜凜々子
	ラザフォード	ライアン	ノボル	